

平成17年度 金沢大学社会貢献推進事業

文化体験学習プログラム

「金沢学」

(Kanazawa Studies)

報 告 書

平成18年3月

金沢大学留学生センター

平成17年度 金沢大学社会貢献推進事業

文化体験学習プログラム

「金 沢 学」
(Kanazawa Studies)

報 告 書

平成18年3月

金沢大学留学生センター

はじめに



留学生センター長

北浦 勝

金沢市は戦禍に見舞われなかつたために、伝統文化・伝統工芸が今もなお暮らしの中に多く息づいています。これらを体験・学習することによって、金沢市のみならず、石川県の、さらには日本の伝統文化をも感じ取ることができます。私ども留学生センターはこの学びを「金沢学」(Kanazawa Studies)と呼んでいます。留学生センターが中心となって「金沢学」を開講する理由は、留学生に日本語とともに日本の文化を学び、体験してもらい、一人でも多くの金沢市、石川県、日本のファンになっていただきたいからです。もちろん日本人学生の受講も大歓迎です。「金沢学」に参加した留学生・日本人学生を経由して地域の文化は国内外に発信され、この地域の豊かな文化が広く流布されています。

ここ数年、特に地域の大学間及び自治体との連携が重視されています。学生同士の交流をはじめ、地域と大学とが多次元で協力・交流することが期待されていますが、留学生センターの「金沢学」(Kanazawa Studies)は、文化体験学習活動を通じてその機会を積極的に提供しています。

なお、「金沢学」の実施に当たっては、石川県、金沢市、県内他大学及びボランティア大学校の方々の熱心なご協力を賜りました。また、文部科学省から特別教育研究経費のご支援をいただきました。ここに記して御礼申し上げる次第です。

目 次

Chapter 1

文化体験学習プログラム「金沢学」概要	6
留学生センターにおける「金沢学」の目的	6

Chapter 2

平成17年度コース概要	7
夏コース	8
秋コース	15
冬コース	18
特別コース	21
金沢学子ども体験塾	22

Chapter 3

金沢学教育研究会	31
----------------	----

Chapter 4

今年度の成果と今後の課題	33
--------------------	----

Chapter 5

広報・資料	35
-------------	----

Chapter 1

概 要

文化体験学習プログラム「金沢学」(Kanazawa Studies)

「金沢学」とは、地域に点在する有形・無形の文化的遺産・資源を集積し、その文化的価値を明らかにすると共に、それらを用いた学習活動を行い、さらには、文化の変遷を見ることにより、歴史・世代の流れを認識し、文化の継承と今後の発展とを図るものである。

＜留学生センターにおける「金沢学」の目的＞

1. 留学生教育の特徴としての金沢学
2. 文化体験学習を通じた国際教育交流
3. 地域との連携と文化活動を通じた貢献



Chapter 2

平成17年度コース概要

平成17年度金沢大学社会貢献推進事業

文化体験学習プログラム

金沢学

夏コース 参加申込者募集



平成17年度 「金沢学」夏コース（一泊二日）

<日 程> 平成17年7月2日（土）～7月3日（日）

<募集人員> 50名（定員に達し次第締め切らせていただきます）

<受講対象者> 石川県内の大学生及び一般

<費 用> 2500円（宿泊費・食費等・保険料として）

<応募締切日> 平成17年6月15日（水）

<内 容> 7/2（土） · 開講式

· 蓼ヶ崎・金沢城とは

· 加賀友禅を知る、体験する

· 金沢の着物文化を学ぶ

7/3（日） · 金沢箔の工程を知る、体験する

· 21世紀美術館見学

· 閉講式



お申し込み、お問い合わせは...

金沢市角間町 金沢大学 留学生センター

TEL: 076(264)6195

FAX: 076(234)4043

E-mail: ryuiku@ad.kanazawa-u.ac.jp

夏コース

平成17年7月2日(土)、3日(日)両日にわたり「金沢学」夏コースが行われた。8カ国に及ぶ留学生、日本人学生、一般市民を含む50名が参加

平成17年度「金沢学」夏コース日程表

7月2日(土)

- 9:15 いしかわシティカレッジ 集合
- 9:30~10:00 開講式(オリエンテーション)
- 10:00~12:00 兼六園、金沢城址公園 散策
- 12:00~13:00 兼六園広坂休憩館(昼食)
- 13:20~15:20 加賀友禅伝統産業会館友禅絵付け体験
- 16:00 キゴ山ふれあいの里研修館 着(泊)
- 16:15~16:30 オリエンテーション
- 16:30~17:30 着物文化講義(吉崎佐知子氏)
- 18:00~19:00 夕食
- 19:30~21:00 意見交換会
- 21:00~22:30 懇親会

7月3日(日)

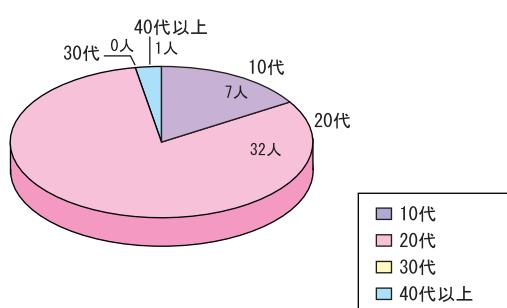
- 7:30~8:30 朝食
- 9:20 金沢市キゴ山ふれあいの里研修館出発
- 10:00~12:00 箔一本店 箔功館 金箔体験
- 12:00~13:00 昼食
- 13:00~15:00 金沢21世紀美術館 見学
- 15:00~15:30 いしかわシティカレッジにて閉講式
- 15:30 現地解散



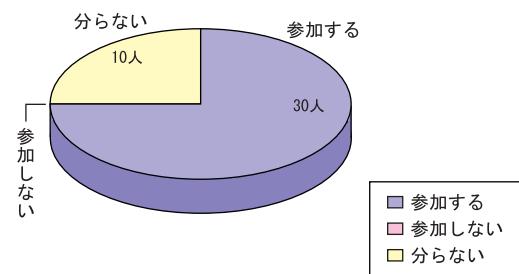
<「金沢学」夏コース アンケート調査報告>

<アンケート資料より>

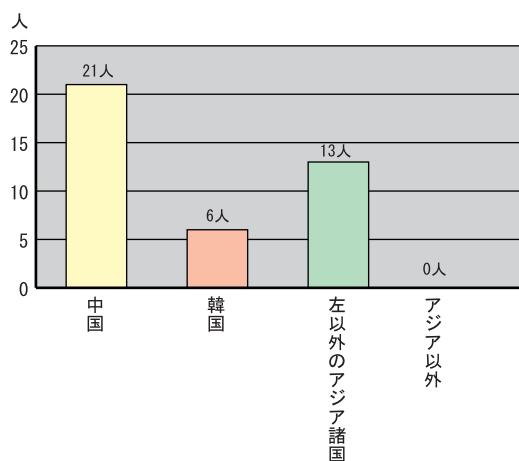
・参加者の年齢



・今後も「金沢学」に参加したいと思うか



・出身国は？



1. 金沢学夏コースに参加した一番の理由

- ①興味のある文化体験学習プログラムだ
と思ったから 29人
- ②大学のスタッフにすすめられたから 3人
- ③参加者どうし交流できるから 7人
- ④その他 2人
(全てにおいて魅力を感じたから、日本語事情Ⅰの授業として)

2. 「金沢学」夏コースの内容全体についてはどうでしたか

- ①とても満足 13人
- ②満足した方 24人
- ③不満な方 3人
- ④とても不満 0人

- (その理由)
 - ・色々な観光地を見物できてとても面白かった。
 - ・他の国の人と話す機会があってとても勉強になった。
 - ・値段が安く金沢の良さを感じられた。
 - ・想像以上に他学生との交流があった。
 - ・色々な観光地を見学できてとても面白かった。
 - ・金沢や日本の文化に初めて触れた。
 - ・兼六園と友禅会館は前に行ったことがある。
 - ・食事と美術館がやや不満。
 - ・たくさんの事を教えていただき役立った。
 - ・皆が一緒に交流することができた。

- ・費用が適當。むしろお得な金額ですばらしいプログラムが受けられたこと。
学生同士に十分な交流の時間を与えられたこと。
- ・スタッフたちはやさしくて、皆と積極的に交流し皆も積極的に話しました。
- ・金箔体験は楽しかった。
- ・コースの設定がよかったです。
- ・日本の文化に深く触れておもしろかった。
- ・勉強になったし、皆と一緒に楽しく過ごした。
- ・色々な体験ができた。
- ・色々なプログラムが面白かった。
- ・コミュニケーションができた。
- ・面白い体験ができた。
- ・ちょっと疲れただけでおもしろかった。
- ・泊まったところの食事が不満。

3. 最も興味を持った科目は何ですか

- | | |
|---------------|-----|
| ①兼六園・金沢城址公園散策 | 10人 |
| ②加賀友禅絵付け | 15人 |
| ③着物文化体験 | 4人 |
| ④金箔体験 | 21人 |
| ⑤金沢21世紀美術館見学 | 4人 |

またその理由は何ですか。

- ・おもしろい。
- ・金沢の文化を知りたい。
- ・再発見できた。①
- ・詳しい説明をしてくれたから。①
- ・ガイドの人についていてくれたので一人で歩く時と違って色々な発見があった。①
- ・普段はできない体験でおもしろかった。④

- ・金沢の代表である伝統文化を体験したかったから。②④
- ・きれいでおもしろい。④
- ・持ち帰られる。④
- ・おもしろかった。②③④
- ・自分で初めてやってみたら楽しくて達成感を感じた。②④
- ・細かい作業が好きなので。④
- ・日本にきて3年間の間に着物文化をしたことがないから。③
- ・すごく難しいと思っていたけど体験したらおもしろい。④
- ・きれいな公園だから。①
- ・金箔は自分でやったからおもしろかった。④
- ・日本の文化を学ぶ事ができました。④
- ・様々な美術の形態を見た。⑤
- ・やはり着たいと思うから。③
- ・好奇心がある、勉強したい。⑤
- ・初めて加賀友禅を見た。②
- ・自分で金箔の作品を作れる。④
- ・きれいなところがたくさんある。①
- ・もともと絵を描くのが好きだから。②
- ・なかなか体験できないことだから。②
- ・異文化の美しさをもっと詳しく知ることができます。②③④
- ・自分が作った作品を見てうれしい。④
- ・新しい体験であるから。②
- ・金沢市を代表するものだから。①

4. これから行う金沢学で受けたい科目

加賀友禅、金箔体験、兼六園・金沢城址公園散策、お茶会、食談義、文化の紹介、加賀料理、日本文化、環境について、柔道、和菓子体験、着物・茶道文化学、服

文化体験学習プログラム 「金沢学」(Kanazawa Studies) 報告書

飾デザイン学、太鼓、飴やあんころもち作り、陶芸、金沢文化と国際文化の交流、三味線、お茶屋遊び、歴史、能、日舞、スキー、バーベキュー、温泉に行く、日本酒の作り方、九谷焼、現代美術、日本の飲食文化、日本の民族楽器、皆着物を着るプログラム、東茶屋街、日本海散策、剣道、金沢だけでなく石川県の有名な場所にいく。

5. 金沢学に参加して友人はできたか

①友人はできた	39人
・同じ大学の友人	31人
・違う大学の友人	6人
・同じ国からの友人	19人
・違う国の友人	10人
・日本人の学生や市民	23人
日本人以外の学生や市民	7人
②友人はできなかった	2人

6. 金沢学に参加した人の交流を活発にするには

時間をもっと長くする。

- ・言葉の関係その他で同国人同士でかたまりやすいので最初からグループ分けをする。
- ・わかれたグループの中に全ての国の参加者を含める。
- ・違う国の人と一緒に寝るのは良かった（部屋で話す状況が絶対できるので）。
- ・金沢学に参加した人で遊ぶ機会をつくり、HPに会員のページをつくる。
- ・参加者に自己紹介カードを書いてもらい、夜にもっと深い親睦会を開く。
- ・意見交換会や懇親会がとてもよかったです。

- ・コミュニケーションゲームをする。
- ・皆であつまって交流会を行う（自己紹介だけでなくインタビューする）。
- ・協力性の活動をしたり文化に関するゲームをしたらよい。
- ・懇親会でもっと多くの学生を参加させる。
- ・泊まるところでスポーツができればよい。
- ・自分の国についてそれぞれはなすこと。
- ・小さいグループに分ける。
- ・もっとおもしろいことをする。
- ・食事をしながら話す。
- ・一緒に遊ぶ。
- ・お酒をのみながら話す。
- ・カラオケをする。
- ・多様なプログラムを作って参加した人々同士が仲良くなって研修後も交流できるよう。

7. 今回の金沢学の感想

①1日目

期待通りだった	34人
期待と違っていた	5人
・すごく楽しかった。	
・留学生と話ができた。	
・期待以上に楽しかった。	
・夕飯がおいしくなかった。	
・友禅の絵付けからやれると思った。	
・着物を着られるとは思わなかった。	
・暑くて大変だった。	

②2日目

期待通りだった	27人
期待と違っていた	13人
・金沢21世紀美術館の見学がつまらない。	

- ・前日にひきつづき楽しかった。
- ・金沢21世紀美術館の紹介がほしい。
- ・美術館が有料ゾーンが多い。
- ・美術館の時間が長い。

8. 金沢学で一番良かったこと

- ・泊まった日、皆で交流したこと。
- ・金沢の伝統工芸を実体験できたこと。
- ・違う大学の学生と交流できたこと。
- ・違う国の人と交流できたこと。
- ・色々な国の人々の視点でものの考え方を聞いたり自國の人だけでは感じられない事を聞いたこと。
- ・金沢だけでなく他国のことよく知り、自分の知識のなさを感じた。
- ・たくさんの各国の人と友達になれたし日本の美しさを知った。
- ・兼六園、懇談会、意見交換会、友禅絵付け、金箔体験、朝ご飯。
- ・日本文化について学びながら体験させていただいて楽しかった。
- ・新しい友人ができ、他国の文化も知ることができた。
- ・金沢の地域文化を知ることができた。
- ・色々な話がたくさんできた。
- ・夜の交流会が良かった。
- ・色々な知らない人に出会い、コミュニケーションができた。
- ・金沢の伝統的な文化を見て、もっと日本文化を知りたい思った。
- ・若者と一緒に金沢の伝統文化を体験でき相当楽しかった。
- ・自分で友禅や金箔の体験ができるよかったです。
- ・新しい経験ができた。

- ・安いコストで一人ではしにくい文化体験ができた。
- ・外国の学生と自由に交流ができたこと。
- ・合宿すること。
- ・おみやげをもらえるし、今まで自分が知らないことや知識を得られた。
- ・着物文化講義。

9. 金沢学をもっと良くするためには

- ・21世紀美術館。
- ・夜のお楽しみ時間を増やす。
- ・時間割の改善。
- ・完璧はないので十分よかった。
- ・英語の話せるボランティアのひとを2人くらい参加させる。
- ・小さいグループに分ける。
- ・荷物を置く場所がほしい。
- ・自由タイムはない方がいい。
- ・一つずつの活動時間をもう少し少なくする。
- ・食事の改善（料金が上がってもいいから）。

10. 11 省略

12. 金沢学への参加回数

はじめて参加	36人
参加2回目	4人

13. 次の金沢学に参加希望するか

希望する	30人
わからない	10人

14. 「金沢学」「学生同士の交流」について の意見

- ・何回か回数を重ねていって、顔見知りになれたら色々話が弾むと思う。
- ・普段の学生生活ではあまり交流をする機会がないので是非続けてほしい。
- ・金沢学で学ぶことが多かったので力になった。
- ・兼六園・金沢城公園は夏場に歩くときつかった。
- ・特技を持っていると重宝するみたいだ。
- ・皆でできるゲームを調べておくとよい。
- ・外国人だけでなく、より多くの日本人も参加することによりお互いに交流できる。

「いしかわ教育ウィーク」共催事業
●平成17年11月1日(火)～7日(月)●

地域とともに
金沢大学
自然・文化・人づくりにまつわる

平成17年度金沢大学社会貢献推進事業
文化体験学習プログラム

「金 沢 学」

秋コース(中級コース)参加申込者募集

<日 程> 平成17年11月5日(土)～6日(日)

<募集人員> 25名
(以前に金沢大学の文化体験プログラム「金沢学」を受講したことのある方を優先させていただきます)

<参加費用> 無 料 (但し合宿に係る宿泊費、食費、保険料等の3500円は各自ご負担下さい)

<応募締切日> 平成17年10月24日(月)

<内 容> 「金沢の秋を染める」
1泊2日の日程で金沢の秋を染める体験をします
(金沢湯涌創作の森工房にて)



お問い合わせ及び申込先
金沢大学 留学生センター
TEL: 076(264)6195
FAX: 076(234)4043
E-mail: mouri@kanazawa-u.ac.jp

秋コース

石川県では、11月1日の「教育の日」にふさわしい取り組みを集中的に展開する期間として、11月1日から7日までを「いしかわ教育ウィーク」としており、その共催事業として11月5日(土)～6日(日)に「金沢学」秋コースを開講した。

金沢市の金沢湯涌創作の森で、8カ国の留学生をふくむ市内の留学生・日本人学生22人が「金沢湯涌創作の森」ディレクター平木有二さんらの指導を受け、「金沢の秋を染める」という題材で本格的な染色を体験した。

世界各地により異なる染色技法、染料についての専門的な講義を受けた後、布や糸、麻ひもなどで絞ってそれぞれ異なる染色液につけ込み、各自が思い思いの作品作りに取り組んだ。

これまで「金沢学」では、1度に数種類の伝統文化を体験することに重点をおいてきたが、今回初めて1種類の科目に集中して取り組む「中級コース」を開講し、参加者からは高い満足度が得られた。

平成17年度「金沢学」秋コース日程表

日 程	平成17年11月5日(土)～6日(日)	宿泊	金沢湯涌創作の森
募集人員	25名		〒920-1135 金沢市北袋町エ36番地
受講対象	平成17年度「金沢学」夏コース 受講者		TEL076-235-1116
参加費用	無料(但し合宿に係る宿泊費、保 険料、食費等3500円は各自負担)	11月6日(日)	
応募〆切	平成17年10月24日(月)	8:00	朝食
11月5日(土)		9:30	染織体験
9:00	金沢大学にて開講式	12:00	昼食
9:30	金沢大学 出発	13:00	染織体験
10:00	金沢湯涌創作の森 オリエンテーション後染織体験	15:00	金沢大学にて閉講式
12:00	昼食(各自準備してくること)		
13:00	染織体験		
18:00	夕食		
19:00	意見交換会		
21:00	懇親会		

<「金沢学」秋コース アンケート調査報告>

良かった点

- ・効率的に染色の勉強ができた。
- ・日本人と一緒に交流ができ、日本語を学ぶことができた。
- ・部屋が良かった。食べ物も良かった。
- ・先生やスタッフの方がとても親切だった。
- ・染色はおもしろかった。自分で染めることができて満足。
- ・日本語は難しいのに、染め方がわかった。
- ・一泊二日を集団で過ごしたことが楽しかった。
- ・日本の四季が美しかった。
- ・学校以外の授業を勉強できて良かった。留学生にはありがたい。
- ・染色について色々な知識を身につけただけなく、自分でタオル（手ぬぐい）やマフラー（ショール）を植物の色素で染められて良かった。
- ・講師やスタッフがていねいで、最後まで自分の作品作りを手伝ってくれた。
- ・珍しい経験ができるて良かった。友達にもおしえたい。
- ・夜の交流会（一緒に会話をしたり、お茶を飲んだり）が楽しかった。
- ・日本の文化をより深く理解できるようになった。
- ・留学生と会話ができる、良い影響を受けた。
- ・2日間通じての染め物は、アイデアや個性がそれぞれ異なっていておもしろかった。
- ・地域というもの、文化というものの奥深さを感じた。

- ・参加経費が安価で中身が充実していた。
- ・外国の方々とコミュニケーションができ、片言の英語でも聞く方、話す方の努力があれば十分伝わることがわかった。
- ・友達がたくさんできた。
- ・温泉に入れてよかったです。
- ・自国との共通点が見いだせた。

改善すべき点

- ・中国の方が多く、もっと色々な国的学生がいたら、その国の文化も知ることができた。
- ・1つのことを集中して学ぶことよりも色々な事を少しづつ体験できる方が良い。
- ・集合場所が少し遠かった。
- ・レクレーションのバリエーションを増やして欲しい。

文化体験学習プログラム
「金沢学」(Kanazawa Studies) 報告書

制作：石川県立金沢商業高等学校
金商ライフサポート

平成17年度金沢大学社会貢献推進事業

金沢学

地域とともに
金沢大学
新潟・人づくりにがむい

冬コース

<日 程> 平成17年12月17日(土)～18日(日)
<募集人数> 50名
(定員に達し次第、締め切らせていただきます)
<参加費用> 無料
(但し宿泊費、食費、保険料等2,500円は各自でご負担下さい)
<募集締切> 平成17年12月6日(火)
<内 容>
-もちつき
-加賀料理
-和太鼓

お問い合わせ及び申込先 金沢大学 留学生センター

TEL:076(264)6195 FAX:076(234)4043
E-mail:mouri@ad.kanazawa-u.ac.jp

冬コース

平成17年12月17日(土)～18日(日)に開催。

参加者は11カ国に及ぶ留学生、日本人学生、一般市民を含む40名。

金沢大学主催の「朝日・大学パートナーズシンポジウム」の行事の一環で行われるもちつきに参加し、また、金沢市キゴ山ふれあいの里で、加賀料理の講義と実習、和太鼓の講義と実践などを行う。

冬コースは「金沢ボランティア大学校」の正規の授業科目として取り入れられ、受講生である市民17名の参加があった。また、幅広い参加者の層に、「金沢学」の地域への浸透度がうかがえる。

平成17年度「金沢学」冬コース日程表

12月17日(土)

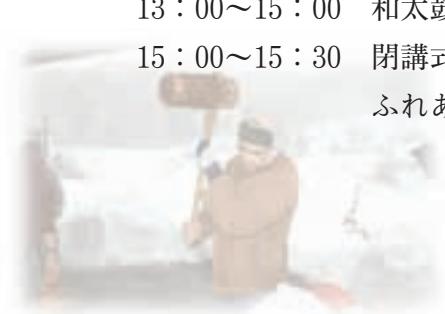
- 9：30 開講式（金沢大学）
- 10：00～12：00 もちつき交流（金沢大学「角間の里」）
- 12：00～13：00 昼食（金沢大学 生協）
- 13：00 金沢大学 出発
- 13：30 金沢市キゴ山ふれあいの里着
- 13：30～14：00 オリエンテーション
- 14：00～15：00 加賀料理講習
- 15：00～17：00 加賀料理実習
- 18：00～20：00 意見交換会
- 21：00～22：30 懇親会

12月18日(日)

- 7：30～8：30 朝食
- 8：30～9：00 清掃
- 9：00～12：00 和太鼓講義
- 12：00～13：00 昼食
- 13：00～15：00 和太鼓実践
- 15：00～15：30 閉講式（金沢市キゴ山ふれあいの里）

宿泊 金沢市キゴ山ふれあいの里研修館

〒920-1107 金沢市小豆沢町ヲ4番地
076-229-0583



<「金沢学」冬コース アンケート調査報告>

- ・たくさんお友達を作ることができた。
- ・みんなの熱気がすごかった。
- ・心が温かくなった。
- ・金沢の文化が理解できた。
- ・楽しかった。
- ・他大学の学生と交流できて楽しかった。
- ・12カ国から集まった留学生と一緒に活動できて良かった。
- ・交流を通じ留学生の実情を知ることができた。
- ・大雪も一興だった。
- ・加賀料理のレシピをもらったので家で作ってみたい。(日本人学生)
- ・言葉と文化を学べた。
- ・久しぶりにもちつきをして、懐かしかった。(日本人学生)
- ・意見交換会で皆とうち解けることができた。
- ・新しい日本文化の発見があった。
- ・自分で作った加賀料理がおいしかった。
- ・伝統文化の太鼓に感動した。
- ・加賀料理で色々な種類の料理を勉強できた。
- ・今後の金沢学が楽しみ。
- ・今後も金沢に関する事柄（伝統工芸の体験など）をやってほしい。
- ・部屋が寒かった。
- ・布団が少なくて寒かった。
- ・料理が冷えていた。
- ・意見交換会や懇親会でもっとゲームをしたかった。
- ・もっとたくさん話したい、友達になりたい、ボランティアについてしりたいけど時間が足りなかった。

アンケート回答者

<u>性別は</u>	男性	11名
	女性	15名

<u>年齢は</u>	10代	1人
	20代	15人
	30代	3人
	40代	0人
	50代	3人
	60代	4人

<u>出身国は</u>	日本	6人
	日本以外のアジア	10人
	それ以外の国	9人
	無回答	1人

金沢学への参加回数は

1回	23人
2回	1人
3回	2人

また「金沢学」に参加したいか

参加したい	22人
参加したくない	0人
どちらでもない	3人
無回答	1人

特別コース

平成18年3月7日(火)に「能の世界にみる女の一生」という題で「金沢学」特別コースを開催。12カ国5大学そして一般市民を含む33名の参加者が、能楽師「藪俊彦」邸の修篁堂舞台にて、能楽に関する講義を受講した。

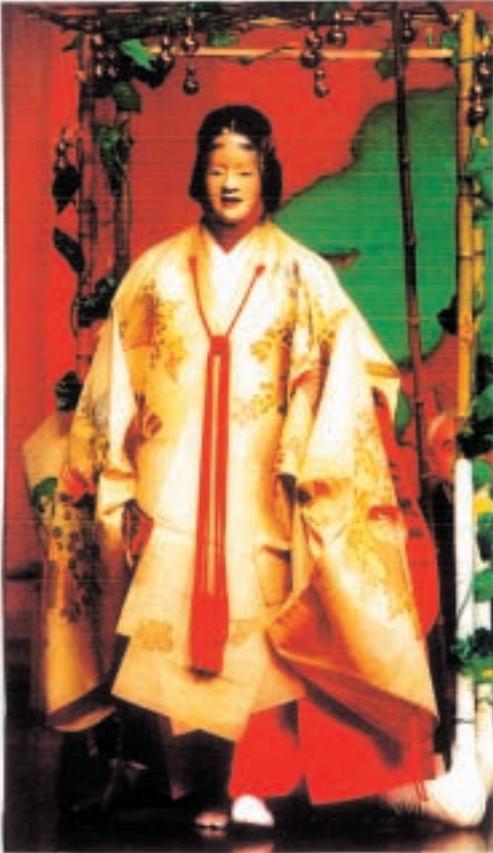
足袋を履いて能舞台を歩いたり、能面や能楽器に触れたりと、普通の能鑑賞ではできない体験をすることができ、より一層能への興味を高めることができた。

能の世界にみる女の一生
能楽師 藪俊彦先生

・2006年3月 7日(火) 14:00始 15:30終

①女舞
左
鑑賞する

・羽衣
・半菊
・梅川
・神樂
・葵上 etc...



②女面の
いろいろ
女の一生?

③面をつけて
歩いてみよう
(足袋自粧の事)

④狂言のちがい
発見

⑤能の準備
さわってみよう
音かでるかな?

金沢学子ども体験塾

平成17年8月24日(水)、25日(木)両日にわたり「金沢学子ども体験塾」を開催。

活動内容：子ども達に加賀百万石の歴史・伝統文化・芸能などの文化を学び、体験学習を通じて日本文化の魅力を発見させる。具体的には、ふるさと金沢の魅力を自信を持って世界に発信することができるようにするため、「和菓子づくり」「茶道」「能楽」「邦楽（箏、三味線、尺八）」などを体験し、日本の伝統文化に触れる。また金沢大学の学生や留学生と交流を深める。

両日約172名の子ども達が参加して、コース別の金沢に息づく伝統文化を体感した。

夏休み 参加者募集

金沢学 子ども体験塾

金沢大学「子ども見学デー」

留学生、大学生と一緒に、日本の伝統文化に触れよう！！

「和菓子づくり・お茶」と「お花」「杖・剣道」「能楽」「琴」「三味線」「尺八」を体験

とき：8月24日(水)、25日(木)

ところ：「角間の里」金沢大学角間キャンパス

対象：小・中学生

日程：

体験コース：「お花」「杖・剣道」「能楽」「琴」「三味線」「尺八」の6コースから選択
(「和菓子づくり・お茶」は全員体験します。)

定員：各選択コース 10名

参加費：500円（和菓子作り体験材料費、保険料）

申込み方法：7月29日(金)〆切

【お問い合わせ】TEL/FAX：076-234-4052
事務局担当：上口、山本、相澤（金沢大学社会貢献室）
TEL：076-264-5905 FAX：076-234-4052 chiiki@ad.Kanazawa-u.ac.jp

主催：「金沢学子ども体験塾」実行委員会
協力：金沢大学社会貢献室

<「金沢学」子ども体験塾 アンケート調査報告>

◆アンケートの集計と分析

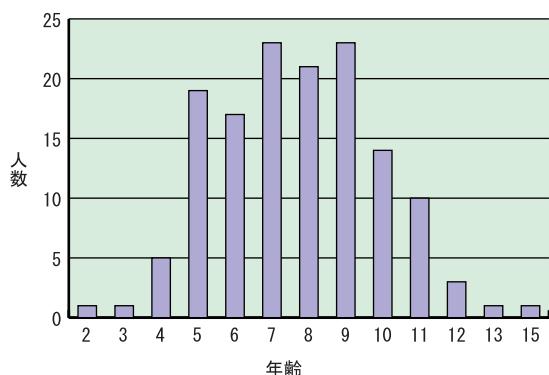
1. 参加した子どもの人数と年齢について

Q1 あなた（お子様ご自身で書く場合）

又はあなたのお子様はおいくつですか？

年 齡	人 数
2	1
3	1
4	5
5	19
6	17
7	23
8	21
9	23
10	14
11	10
12	3
13	1
15	1

年齢別人数



○分析

- ・参加した子どもたちの数が多い年齢層は、5歳・7～9歳。

→幼稚園児と小学生の低学年と中学生

→なぜ、こういう傾向になったのか？

子ども見学デー・金沢学子ども体験塾

の見学・体験内容が主に小学校低学年向

きだったからではないか。

- ・団体行動が多く、小さい子どもには不向き→対象年齢を小学校以上にすべきでは、との参加者からの意見。

○提案

- ・今回の参加者の年齢層とアンケートの意見から、参加対象年齢を小学生（特に低学年～中学年）に絞ってみるのはどうか？
- ・対象年齢を絞らないのであれば、どの年齢の子どもたちも満足できる体験内容を用意するべき。

体験したコースとそれぞれのコースにおける満足度について

Q6 今回体験したコース名は？該当するもの○で囲んで下さい。

1. お花コース 2. 杖・剣道コース
3. 能楽コース 4. 箏コース
5. 三弦コース 6. 尺八コース

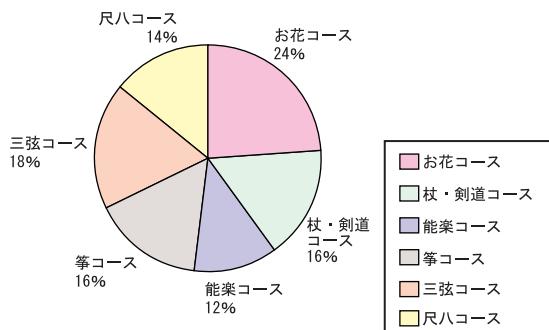
I. アンケート回答者の体験コース参加人数

24日コース別 (人数)

お花コース	12
杖・剣道コース	8
能楽コース	6
箏コース	8
三弦コース	9
尺八コース	7

文化体験学習プログラム 「金沢学」(Kanazawa Studies) 報告書

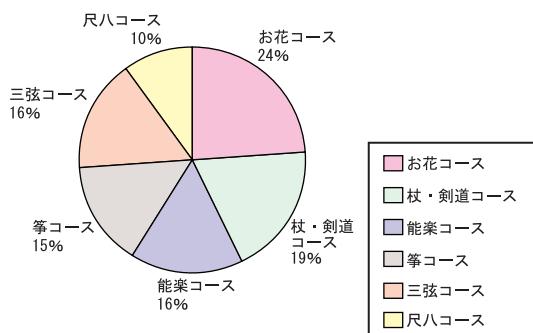
Q 6 体験したコースは？ (24日)



25日コース別 (人数)

お花コース	15
杖・剣道コース	12
能楽コース	10
箏コース	9
三弦コース	10
尺八コース	6

Q 6 体験したコースは？ (25日)



II. 体験コースを総じての分析と提案

○体験コースを総じての分析

- 今回の参加者に多い、幼稚園児、小学校低、中学年の視点から見ると内容的に難しいもの多かった。
(体験についてのアンケートより。)
- 企画自体というよりは、内容が難しいことや、やり方に問題があるために個別に

あげられるような不満が出た。

- 内容が改善できるものは、二日目には満足度に変化が見られるが（お花）、説明の仕方などを改善しても、体験内容自体が難しく、二日目も不満の出るものがあった。（能楽や尺八）

○提案

- 総じて、アンケートからは、子どもにとつては難しすぎるという意見が多かったため、例えば、対象年齢を絞ってそれに合わせた体験内容にするか、対象年齢を絞らないならばどの年齢にも対応できる措置、準備、内容を考えるという必要があると思う。（年齢ごとに、体験する内容のレベルを変えるなど、何パターンか用意する。）

- やり方に対する改善は次の日に生かせたが、内容が自体が難しく改善しにくいものもあったので、担当の方に、子ども向けになるような体験内容をしっかり考えてもらい、事前にチェックするなどのチェック体制を整えてもいいのではないか。

Q 7 体験コースは満足のできるないようでしたか？

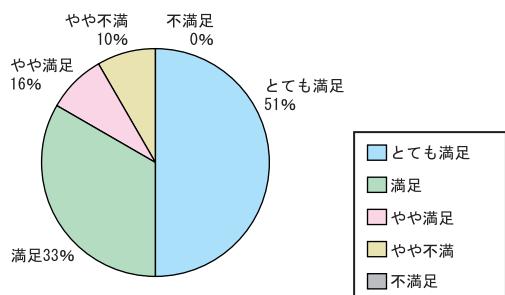
- とても満足
- 満足
- やや満足
- やや不満
- 不満足

III. お花コースについて

24日 (人数)

とても満足	6
満足	4
やや満足	1
やや不満足	1
不満足	0

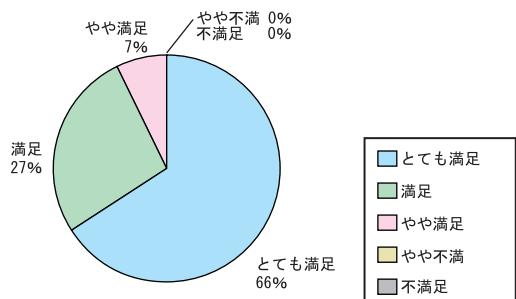
Q 7 お花コースについて？（24日）



25日 (人数)

とても満足	10
満足	4
やや満足	1
やや不満	0
不満足	0

Q 7 お花コースについて？（25日）



満足な理由

なし。

不満足な理由

説明が聞こえず、わかりにくい。

○提案

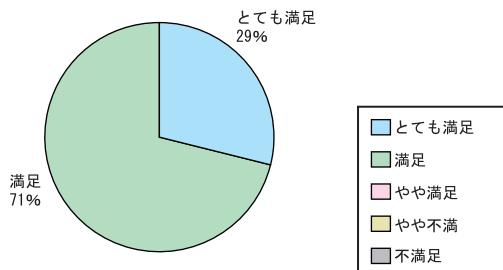
- お花コースに多くの関心が集まっていることが分かるので、今後、コース内容の見直しをして、参加者の年齢に合ったコース内容にするよう改善する。

IV. 杖・剣道コースについて

24日 (人数)

とても満足	2
満足	5
やや満足	0
やや不満	0
不満足	0

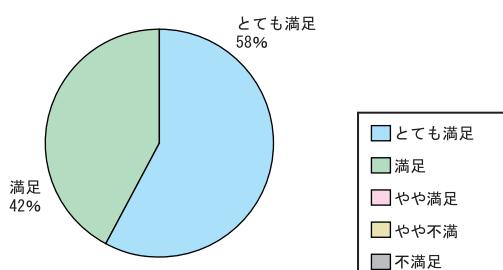
Q 7 杖・剣道コースについて？（24日）



25日 (人数)

とても満足	7
満足	5
やや満足	0
やや不満	0
不満足	0

Q 7 杖・剣道コースについて？（25日）



○分析

- 大人も苦戦するほどコース内容は難しかった。
- 統計よりすべてのコース中、お花コースを第一希望とする参加者が一番多かった。

文化体験学習プログラム
 「金沢学」(Kanazawa Studies) 報告書

満足な理由

またやりたい。

不満足な理由

なし。

25日 (人数)

とても満足	5
満足	2
やや満足	1
やや不満	2
不満足	0

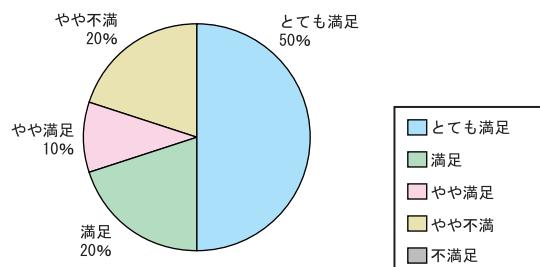
○分析

- アンケート結果を見ると、最も満足の度合いが高かった。

○提案

- 参加者の年齢層も幅広く、これだけの満足が得られたこと理由としてアンケートから考えられることは、指導する先生の丁寧な指導にあったと考えられる。
- 杖・剣道コースに習い、他のコースも良い満足度が得られるようにする。

Q 7 能楽コースについて? (25日)



満足な理由

めったに機会がないのでよかったです。先生の説明もよかったです。

不満足な理由

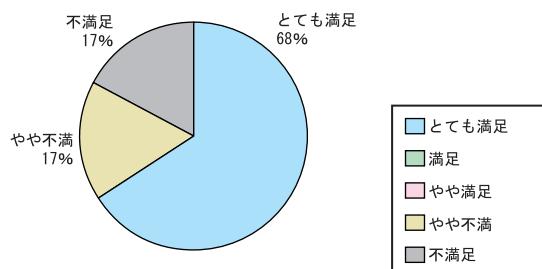
おどりたい。おどりみたい。

V. 能楽コースについて

24日 (人数)

とても満足	4
満足	0
やや満足	0
やや不満	1
不満足	1

Q 7 能楽コースについて? (24日)



○分析

- 能楽コースは参加者の年齢層が低く、幼稚園から小学校の中学校年まで参加者が多かったこともあり、実際に踊ってみたいという不満も聞かれただけでなく、譜面など小さい子どもには読めない内容のものであった。

○提案

- コースの中には、お花コースなど24日に出た不満を次の日までに改善することの出来るものもある。しかし、能楽コースの場合、すぐには改善できなかったようで、25日でも不満は聞かれた。
- 今年の経験も鑑み、能を実際に、参加者

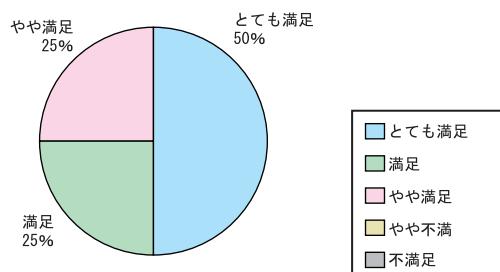
が踊れるようなコースに出来れば参加者の満足度も得られるものと考えられる。また、譜面には小さい子どもでも読めるような工夫を早いうちから準備する必要があると思う。

VII. 箏コースについて

24日 (人数)

とても満足	4
満足	2
やや満足	2
やや不満足	0
不満足	0

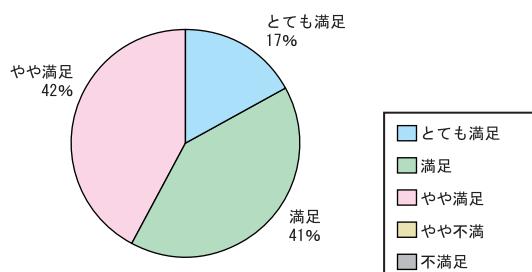
Q 7 箏コースについて？ (24日)



25日 (人数)

とても満足	2
満足	5
やや満足	5
やや不満足	0
不満足	0

Q 7 箏コースについて？ (25日)



満足な理由

なし。

不満足な理由

漢字読めず難しい。

もっとゆっくり。

○分析

- 参加者の中には、小さい子どもも多く、譜面などの漢字が読めないという不満が聞かれた。
- 箏コースは先生による指導時間が短かったようで、60分の体験コース時間が長く感じた参加者が多かった。

○提案

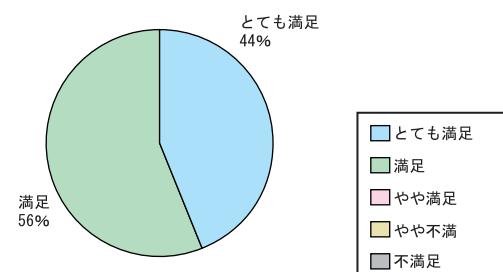
- 譜面を読みやすくするなどの工夫が必要。
- 指導時間を長くしてもらい、参加者が飽きないような時間配分にしていく必要がある。

VIII. 三弦コースについて

24日 (人数)

とても満足	4
満足	5
やや満足	0
やや不満足	0
不満足	0

Q 7 三弦コースについて？ (24日)

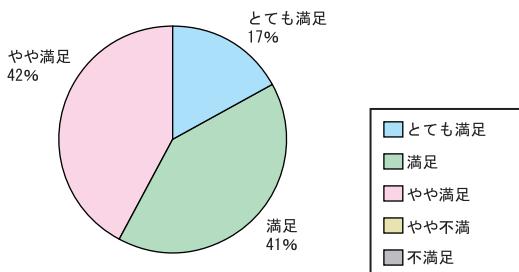


文化体験学習プログラム
 「金沢学」(Kanazawa Studies) 報告書

25日 (人数)

とても満足	2
満足	5
やや満足	5
やや不満足	0
不満足	0

Q 7 三弦コースについて? (25日)



満足な理由

なし。

不満足な理由

退屈でした。

○分析

- 三弦は誰でも音が出るので、尺八のように音が出ない等の不満はなく、どの参加者も三弦を楽しんでいたようである。

○提案

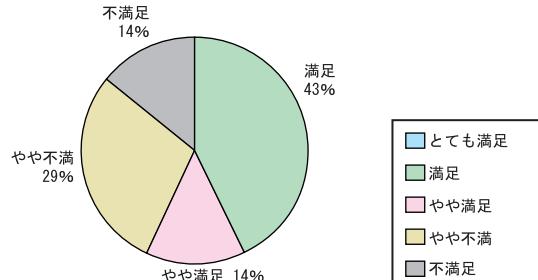
- 三弦の場合は次年度も今回のようなコース設定でよいと考えられる。

VIII. 尺ハコースについて

24日 (人数)

とても満足	0
満足	3
やや満足	1
やや不満足	2
不満足	1

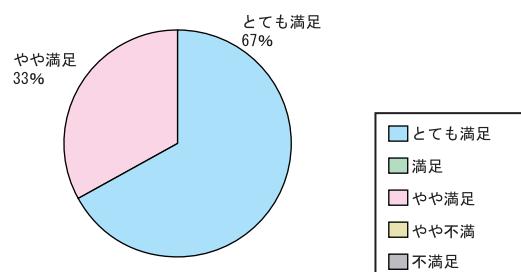
Q 7 尺ハコースについて? (24日)



25日 (人数)

とても満足	4
満足	0
やや満足	2
やや不満足	0
不満足	0

Q 7 尺ハコースについて? (25日)



満足な理由

なし。

不満足な理由

音が出ない。

○分析

- 尺八の音の出ない参加者が多かったため、不満の声も多かった。

○提案

- 尺八のコース自体、あまり子ども向けの企画ではないように思われる。

なぜならば、子どもの参加者は尺八で音を出すことを期待していると考えたためである。

しかし、今回の尺八コースを体験することで尺八の音を出す難しさを参加者は体験できたものと考えられる。

IX. 和菓子づくり・お茶について

このコースでは、参加者全員が最初に和菓子を作り、その和菓子とともにお茶を体験した。

○アンケートにみられる不満意見

- ・子どもには説明が早く難しかった。
- ・子ども2人と親1人に別れてテーブルについたため、和菓子を作るときに見てあげられなかった。
- ・教える職人の数を増やすべき。
- ・待ち時間が長かった。
- ・もう少し時間があったほうがよかった。
- ・人数が多くすぎた。
- ・出来上がりがあったほうがよかった。

○分析

参加者からの不満点の代表的なものとして、時間と指導のやり方の2点が挙げられる。
→指導者の方が子どもに教えなれていなかつたのでは？

→和菓子の時間設定が不明瞭だったのでは？

○提案

- ・見本や手順を示す大きな図などを事前に用意。
 - ・指導者の数を増やすべき。
- 指導者に体験コースの趣旨などを事前に

念入りとした打ち合わせ。

- ・お茶の部屋がせまい→回転率が悪い→隣の筝コースの部屋を少し開放したほうがいいのでは。

6. 今後やってみたい体験コースについて

Q8 あなたが今後体験するとすれば、どのようなことを体験したいですか？

お 琴	6
お 花	7
剣 道	8
日本舞踊	
乗 馬	
バードウォッキング	
三味線	6
美 術	
たいこ	
料理	
能 楽	
着付け	
書 道	

↓
体験コース関連

○分析

今回体験できなかった、あるいはやってみたかったコースへの希望が多い。

今回の体験のイメージから、日本文化に関する体験内容への希望が多い。

○提案

今回の子ども体験塾で取り上げた、伝統文化だけでなく、例えば金沢に根付いた伝統文化をさらに取り入れることで、参加した子どもたちに自分たちの暮らしている地域の伝統文化について再発見する機会になればと考える。

Chapter 3

金沢学教育研究会

目的・趣旨

平成17年6月21日(火)金沢学教育研究会を発足させた。

目的：「金沢学」教育内容の検討、教材開発のための調査研究を行い、大学・地域連携教育システムの構築を目指す。

教育研究会委員：

表 純一 (石川県教育委員会)
池村 義博 (金沢市教育委員会)
城崎 英明 (金沢美術大学染織助教授)
木越 治 (金沢大学文学部教授)
岩本 健良 (金沢大学文学部助教授)
北浦 勝 (金沢大学留学生センター長)
岡澤 孝雄 (金沢大学留学生センター教授)
八重澤美知子 (金沢大学留学生センター教授)
太田 亨 (金沢大学留学生センター助教授)
ビットマン ハイコ (金沢大学留学生センター助教授)
毛利 泰江 (金沢大学留学生センター)

<第2回金沢学教育研究会>

平成17年7月12日(火) 10:00~11:30

<第3回金沢学教育研究会>

平成17年9月8日(木) 10:30~12:00

<第4回金沢学教育研究会>

平成18年2月8日(水) 10:00~11:30

- ・石川県、金沢市、高等教育機関が連携し、地域のために役立つ内容とすることが重要。
- ・石川県教育ウィークと連携したコースの提案。
- ・総合教育用指導書不足改善にむけての体制づくりの提案。
- ・金沢学の範囲を日本文化全体に広げる「金沢で学ぶ・金沢を学ぶ・金沢から学ぶ」発想の提起。
- ・大学の授業として市民や子どもが参加しやすいものを検討。
- ・金沢をはじめ日本の伝統文化を体験できる機会を子どもに与えるのは大変重要。
- ・小・中・高の地域教育の内容調査及び教材開発の検討。
- ・県・市職員初任者研修における教養的プログラムとして組み込む「金沢学」。
- ・小中高大という一連した流れの中で体系化していく必要性(先を見据えた体系化の実現)。
- ・「大学で出来ること、地域で出来ること」の目的意識。

Chapter 4

今年度の成果と今後の課題

成果と今後の課題

今年度の成果

①石川県・金沢市及びその他の教育施設等、学外との連携が強化された。

- ・石川県「いしかわ教育ウィーク」において石川県教育委員会の共催事業として「金沢学」秋コースを開催。
- ・金沢美術工芸大学関係者の全面的な協力により、「金沢学」秋コースにおける染色の体験学習の実現。
- ・金沢市の施設である「金沢湯涌創作の森」を利用したコースの開催。
- ・「ふるさと教育」に関し、教育現場で求められている事項について、大学として実現可能な事を、初等教育から高等教育まで一連した流れの中で問題提起・検討。

②金沢大学「金沢学」が浸透し、学外の諸団体から共催の申込がくるようになった。

- ・いしかわ教育ウィークにおける共催事業として秋コースを開催。
- ・「特別コース」を金沢能楽界からの提供を受けて開催。
- ・石川県酒造組合から「石川の地酒学」の開催申込。
- ・N P O 法人「日本武道修学院」より武道を普及させる講座の開催申込。

③参加者の多様性と広がりが見られ、「金沢学」は地域の国際化に貢献する事業であるとの実感を得た。

- ・金沢ボランティア大学校のカリキュラムの中に「金沢学」への参加が組み込まれている。
- ・金沢大学「角間の里」里山メイトとの連携がみられる。

④地域の風土的な特徴（四季の特徴）を取り入れて、一年を通してのサイクルが確立した。

今後の課題

年度を通しての成果と反省点をふまえ、常に新しい内容・方法を考えていく。

Chapter 5

広報・資料

文化体験学習プログラム 「金沢学」(Kanazawa Studies) 報告書

金沢文化の魅力
留学生に伝える
体験プログラム
県内の大学に在籍する
留学生などが金沢の文化
を体験学習するプログラム
「金沢学」が二日から一泊三日の日程で金
沢市内で始まり、兼六園
の歴史や名所の紹介体
験に挑戦した。
これは日本人学生も
含め計八カ国から約五十
名の留学生が参加する予定。
(寺田泰樹)



留学生に伝える
体験プログラム
県内の大学に在籍する
留学生などが金沢の文化
を体験学習するプログラム
「金沢学」が二日から一泊三日の日程で金
沢市内で始まり、兼六園
の歴史や名所の紹介体
験に挑戦した。
これは日本人学生も
含め計八カ国から約五十
名の留学生が参加する予定。

7月3日 北陸中日新聞 朝刊

学生ら染色体験
金大「金沢学」
いしかわ教育ワーク
に合わせ、金大の「金沢
学」秋コースが五日、金
沢市の金沢湯涌創作の森
で二日間の日程で始ま
り、市内の学生や留学生
ら三十七人が染色体験を
楽しんだ。
参加者は、金沢湯涌創
作の森工房染ディレクタ
ーの平木有二さんの指導
を受け、藍染めに取り
組んだ。布を糸や麻ひも
などで絞つて染色液につ
け込み、オリジナルの模
様を作った。
六日は、参加者がアカ
ネやカリヤス、梅の枝な
どで綿のスカーフを染め
る。

学生ら染色体験

7月3日 北國新聞 朝刊

>>>> 金沢学報告

2年 野村 陸一

7月2日（土）・3日（日）「金沢学への招待（夏
コース）」に参加しました。主な参加対象者は石川県
内大学の留学生です。《「地域とともに—金沢の“自
然”“文化”“人づくり”“にぎわい”》という内
容の趣旨で開催されました。

参加者は総勢46名で、
中国、韓国、マレーシア、
タイ、フランス、ドイツ
といったさまざまな国の
留学生です。兼六園、金
沢城址公園散策、加賀友
禅の絵付けや着物体験、
金箔細工の体験、新しい21世紀美術館の見学など、
まさに金沢の文化そのものを感じる内容でした。



以下、感想です。
①金沢という地域の自然、文化等を外国人達に体
験してもらうことは日本の國を理解するのにたいへん
有効な手段だと思いました。

②國は違っていても若い
学生のパワーは大きく、みな
さん積極的で優秀な方ばかり
でした。



③宿泊した宿での意見交
換会、ドリンクを飲んでの想
観会は本音で語り合ういい場となりました。

④企画された金沢大学留学生センターの親身な運営
に感動しました。

ぜひ、次回も参加したいと思います。
皆さんも一緒に参加してみませんか？

2005年7月20日 twinkie 星稜

留学生がもじづきや加賀料理に挑戦 「金沢学」冬コース 留学生や日本人学生に伝統文化を体験してもらおうと金大が実施する「金沢学」の冬コースが十七日、開講し、初日は留学生ら四十六人が金沢市内でもちつきや加賀料理作りなどに挑戦した。午前中は、金大角間キャンパスの「角間の里」で金沢ボランティア大学校が開催したもちつきに参加。里山メイトらにきねの持ち方を教わった留学生は、もつもうと湯気のたつもち米をつき上げ、きなこなどで味付けして柔らかさを触りを楽しんだ。

トルコから金大に留学中のシェイマー・ナルバントさん(三)は、「きねが思つたより重く、大変だつた。手作りはとてもお



いじい」と笑顔を見せた

もちつきに挑戦する留
学生
金大「角間の里」

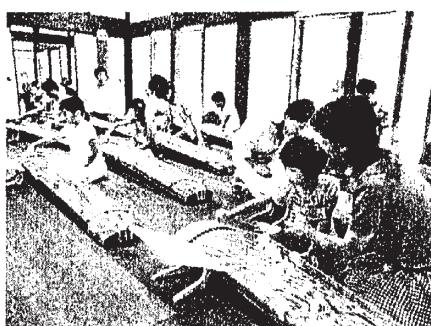
学生「ら染色体験」
金大(金沢学)
いしかわ教育ワーキング
に合わせ、金大の「金沢
学秋コースが五日、金
沢市の金沢湯涌創作の森
で二日間の日程で始ま
り、市内の学生や留学生
ら二十七人が染色体験を
楽しんだ。
参加者は、金沢湯涌創
作の森工房染アイレクタ
ーの平木有二さんの指導
を受け、藍染めに取り
組んだ。布を糸や麻ひも
などで絞つて染色液につ
け込み、オリジナルの模
様を作った。
六日は、参加者がアカ
ネやカリヤス、梅の枝な
どで絹のスカーフを染め
る。

2005年11月6日 北國新聞21面

2005年12月18日 北國新聞21面

子どもも「金沢学」体験

金大 茶道、筆、能などで交流



等の演奏を体験する子ども

金大の金沢学生なども体験塾は二十四日、角間ヤンバスで行われ、県内の子どもと保護者百五十人が茶道や和菓子作り、三味線、筝、能などを金沢に息づく伝統文化を体感した。指導は教職員のほか、学生サークルのメンバーらが務め、子どもたちと交流した。

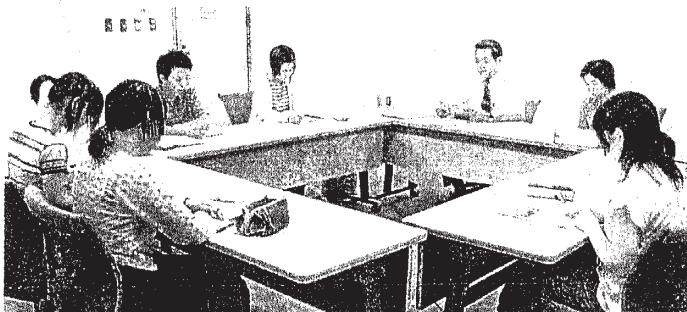
三味線の体験コースでは、金大の邦楽サークル「竹糸会」会長で文学部

前から留学生と日本人学生を対象に開いてきた講座を子ども向けに再編して、各施設「角間の里」をメイン会場に開催された。金大留学生約四十人も参加した。

三年の友尾真魚さん(三)が、ぱちの握り方から構え方まで指導した。金沢市伏見台小二年の中泉紗代子さん(七)は「三味線は使いなどが難しいけれど、優しく教えてもらえて楽しかった」と話した。

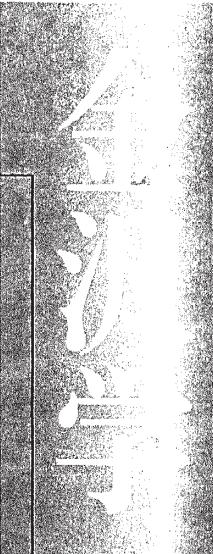
2005年8月25日 北國新聞

子どもたちも



子ども版金沢学の開催に向け打ち合わせる関係者
＝金大角間キャンパス

茶や和菓子伝統学ぶ



金大は八月、子ども対象の「金沢学体験会を開講する。三年前から留学生と日本人学生を対象に聞いてきた講座を子ども向けに再編し、茶道や和菓子などの伝統文化体験、留学生との交流を予定する。加賀百万石の歴史や文化を鑑賞できる内容で、学生サークルの協力も得て、金大の魅力も知つてもいい。

子ども版金沢学は、「金

沢学子ども体験塾」と銘打ち、金大的「子ども観察デー・子ども観察日」に合わせて八月二十四・二十五日に開かれる。ふるさとの魅力再発見、世代や国籍の違いを超えた交流で幅広い視野を養つてもらう狙い。留学生に石川の文化の魅力を知つてもらう目的で、二〇〇二年度から始めた伝統文化の講義と体験学習を開いた実績を生かして企画された。

キャンパス内の交流施設「角間の里」を主会場に、子どもたちが、和菓子作りや茶道、生け花、剣道、能楽等、三味線、尺八など実際に触れて学ぶ。開講に協力する伝統文化サーク

ルの学生が講師の補助を務めるほか、留学生も参加して交流を深める。
独立行政法人国立オリン

ピック記念青少年総合センターの「子どもゆめ基金」の助成を受けて開かれる。企画した金大社会貢献室の上口大介室長補佐は、「ふるさとを好きになつてもらうとともに、地域の知の拠点としての金大を知つてもらいたい」と語った。

参加対象は小中学生。費用は和菓子作りの材料費と保険料の五百円。問い合わせは社会貢献室＝076-264-5900まで。

2005年7月29日 北國新聞